

6 「五島地鶏しまさざなみ」新規就農経営体への飼養管理向上支援

五島家畜保健衛生所

前田 将誌・下條 憲吾

五島地区においては、新たな地鶏の創出とブランド化を目指して「五島地鶏しまさざなみ」の推進に取り組んでいる。今回、「五島地鶏しまさざなみ」を飼養する養鶏場が地域内の法人に経営移譲され、これまで養鶏業に携わってこなかった企業従業員によって飼養管理が行われることとなった。そこで、関係機関等と連携して飼養管理について指導を実施し、一定の成果が得られたので、その概要を報告する。

1 農場概要

飼養鶏種は「五島地鶏しまさざなみ」（シャモ（雄）×横斑プリマスロック（雌））（図-1）。種鶏 50～80 羽、肉用鶏 2,000 羽の一貫経営。種鶏舎 1 棟、育雛舎 1 棟、肥育鶏舎 4 棟で飼養している。

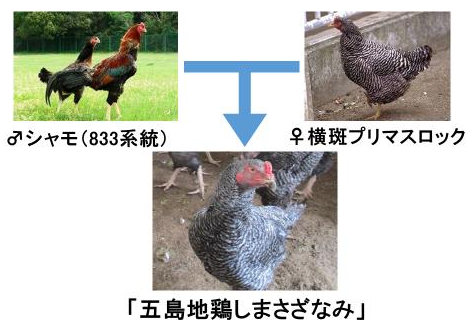


図-1 「五島地鶏しまさざなみ」とは

2 推進体制

「五島地鶏しまさざなみ」は、生産農家、ごとう農業協同組合、五島市が会員となり「五島地鶏しまさざなみ推進協議会」を設立し推進している（図-2）。五島家畜保健衛生所（以下、五島家保）、振興局農業振興普及課（以下、局普及課）はオブザーバーとして参加し、また、県農林技術開発センター畜産研究部門（以下、

農技センター）とも連携して技術指導を行い、活動を支援している。

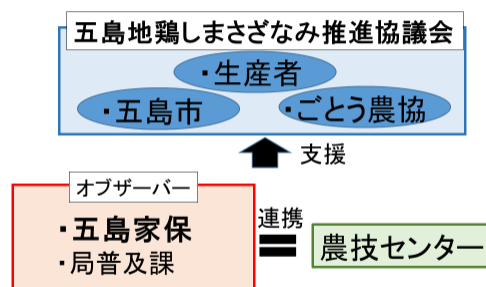


図-2 推進体制

3 問題点

農場の生産記録から、出荷可能羽数の低迷（平成 30 年 1 月：46 羽/月）および種鶏更新の遅延が判明した。農場立入等から、雌種鶏の跛行、肥育鶏舎内では「つつき」による損耗が多発していた。また、鶏舎の老朽化が進行し飼育環境の改善が必要であった（写真-1～3）。



写真-1 旧種鶏舎



写真-2 旧肥育鶏舎



写真-3 旧肥育鶏舎

4 対策

定期的に農場を訪問し、農場内の状況把握と飼養管理及び衛生管理について指導した。種鶏の更新遅延については、市の助成を受け、年1回、計画的な導入を実施した（表-1）。飼養管理面では、種鶏と肥育鶏に同じ自家配合飼料が給与されていたことから、種鶏への飼料給与を自家配合から採卵鶏用市販配合飼料へ変更した。雌種鶏の跛行については、シャモ 833 系統の雄は横斑プリマスロックの雌より非常に大型であるため、乗駕時の脚部への負荷が原因のひとつとして考えられた。そこで、種鶏のペアリングバランスを雄1：雌5から同1：7に変更した（図-3）。「つつき」対策として、幼雛期のデビークを実施した（写真-4）。老朽化した鶏舎については、五島市雇用機会拡充支援事業を活用し、平成30年7月に種鶏舎を新築した（写真-5）。8月以降、自己資金で肥育鶏舎も順次改築・新築している（写真-6）。更に、従業員指導として、平成30年7月には従業員、五島市、局普及課、五島家保、農技センターが集まり、現地視察を行い、その後、検討会を実施し、改善点を協議した（写真-7）。

表-1 対策1-① 種鶏の更新

委譲前	種卵導入数	
	軍鶏	横斑プリマスロック
H28.1	50個	120個
H29.3	50個	—
H29.5	—	120個

↓ 市の助成

委譲後	種卵導入数	
	軍鶏	横斑プリマスロック
H29.11	50個	300個
H30.12	50個	300個



♂シャモ(833系統)
体重:5.6kg



♀横斑プリマスロック
体重:2.9kg



ペアリングバランスを変更
 (変更前)雄1羽-雌5羽
 ↓
 (変更後)雄1羽-雌7羽

図-3 対策2-① 雌種鶏の跛行

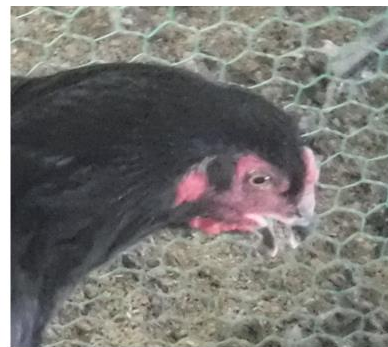


写真-4 対策2-② デビーク

種鶏舎(新築)

- 五島市雇用機会拡充支援事業を活用
- 農技センターと設計について協議



写真-5 対策3 種鶏舎の新築



- 肥育鶏舎(自己資金)
- 1 鶏舎を新築
- 3 鶏舎を改築

写真-6 対策3 肥育鶏舎の新改築



写真-9 新肥育鶏舎

現地視察検討会



写真-7 対策4 従業員指導



写真-10 新肥育鶏舎

5 結果

各種指導によって従業員の飼養管理技術が向上するとともに、鶏舎新改築等によって飼育環境も改善した(写真-8~10)。更に、順調に種鶏が更新されたことで、平成30年8月以降、産卵率が平成29年度16.8%から40.3%に改善した(表-2)。また、出荷可能鶏が平成31年1月には370羽/月と大幅に増加した(図-4)。

表-2 産卵率・産卵数

	平成 29年度	飼料 変更後	種鶏 更新後
産卵率 (%)	16.8	30.7	40.3
産卵数 (個/月)	333	374	862



写真-8 新種鶏舎

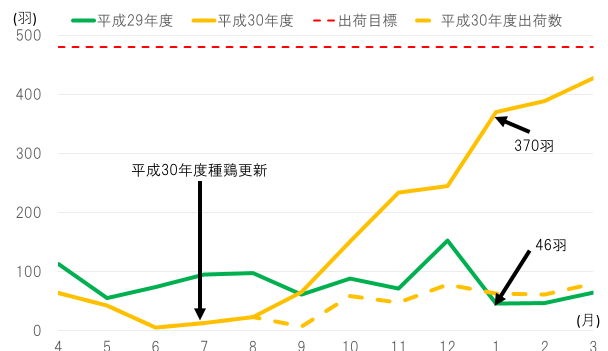


図-4 出荷可能羽数

6 まとめおよび今後の対策

関係機関と連携した指導の結果、当該農場における生産性が改善した。しかし、暑熱期の損耗、孵化率の向上など、更に改善が必要な課題が残っている。今後も関係機関と一体となった支援を継続し、順次課題を解決していき、生産性の向上に寄与したい。